

外国語活動・外国語科実践提案

— 葛西希美 土開敏真 伊藤暢宏 大塚光朗 河合美保 —

1 これまでの外国語科の取組

外国語科で大切にしてきたこと

現代社会はグローバル化が急速に進展し、生涯にわたる様々な場面で、外国語によるコミュニケーション能力が必要であると想定されている。そんな社会の中で、獲得した知識及び技能を生かしながら自分の考えを主張するための思考力、判断力、表現力等を高めるために、私たちは今年度「目的に応じて自己を表現する児童生徒の育成」を研究主題として掲げ、研究を行っている。言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのカリキュラムを作成するとともに、コミュニケーション活動と教科書を使ったラウンド学習を行うことで、「外国語科の見方・考え方」を意図的に働かせることを促すために次の2点を研究内容として設定した。

(1)【研究内容Ⅰ】ラウンド学習の充実

本校は、1年間を三つのSeasonに分類している。(Season1⇒4月～7月 Season2⇒8月～12月 Season3⇒1月～3月)そして、さらに一つのSeasonをPhase0～Phase3までの四つのパートに区切り、「コミュニケーション活動」と「ラウンド学習」を核とした指導を行い、その成果を終末のパフォーマンス課題で評価をしている。この一連の指導と評価を通して、児童生徒が使う英語表現の多様性と正確性を含めた、既習表現の活用力を高めたいと考えている。

言語の習得は一単位時間で完結するものではなく、題材や言語材料等に繰り返し出会ったり、コミュニケーション活動の中で実際に使ったりする中で少しずつ行われていくものである。そこで、言語を習得する過程に沿って、繰り返し題材や言語材料と出会い、児童生徒がそれらを自在に活用することができるようになる授業過程について考えた。

単元の出口であるPhase3では、児童生徒が付けた力を発揮できるように、パフォーマンステストを位置付けた。さらに、Phase2ではパフォーマンステストの課題と類似する活動を位置付け、獲得した力を発揮できるようにした。

また、Seasonの初めにはオリエンテーションを行い、児童生徒の学習段階に応じた適切な課題設定をするようにした。Seasonを通して、児童生徒が明確な相手意識をもち、身に付けた知識及び技能を使って理由や根拠をはっきりとさせながら仲間とコミュニケーションを図ることができるようにラウンド学習を展開している。表現活動は、出口のテストでのみ行うのではなく、毎回の授業や

単元の中で何度も行い、スモールステップを踏みながら、児童生徒に力が付くようにしている。

(2)【研究内容Ⅱ】学びの系統制の明確化

①9年間を見通したカリキュラムの工夫

本校は、一つの校舎の中で第1学年から第9学年(中学校第3学年)が学んでいるという強みを生かし、小学校(前期課程)と中学校(後期課程)の連携を図るために、一貫性をもたせた系統図やカリキュラムを作成した。

この系統図の中で、各学年の到達目標をそれぞれ設定し、「聞く」「話す(やりとりと発表)」「読む」「書く」の4観点において、それぞれの観点を、学習過程のどの場面で中心的に学習するのかを明らかにした。Ⅰ部(第1学年～第4学年)では、言語活動を通して、外国の言語や文化に触れながら自然に異文化理解を深めたり、児童の「話したい」という思いを大切にしたりしながらコミュニケーション能力の素地を育成している。Ⅱ部(第5学年～第7学年)では、Ⅰ部で養った素地を生かし、目的や場面、状況等に応じて、自分のことのみでなく日本や世界のことについて、自分の考えを伝え合う能力の基礎的な力の育成をしている。Ⅲ部(第8学年、第9学年)では、日常的な話題や社会的な話題について、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、目的や場面、状況に応じて情報を整理しながら考えを形成したり、再構築したりすることができる生徒を育成している。

それぞれの学年の到達目標を明確にすることで、各学年間の学習過程がスムーズに繋がるようなカリキュラム編成を大切にしている。

②前期課程と後期課程の連携

私たちは、前期課程の学習を後期課程の学習に接続するとともに、「英語を使って何ができるようになるかを明確にする」ことが大切であると考えた。前期課程で行っている「話すこと」「聞くこと」の指導、さらに、アルファベットや短い単語を見て意味を類推する「読むこと」や、文字をなぞったり、単語を書き写したりする「書くこと」などの活動を後期課程にスムーズにつなげるために、第7学年の学習過程の中に、文字と音声をつなげることを目的とした独自のラウンドを設定した。また、第7学年の生徒が第6学年の児童に「後期課程での学校生活」について教える活動を設定し、第6学年が中学校生活に希望をもって第7学年に進級できるように学習過程を位置付けている。

2 自己実現に向かう資質・能力にかかわる手立て (1) 問題解決力について

自分の知識や経験を生かしながら、題材に応じて適切な言語を判断したり、活用したりしながら課題解決に迫る姿

① 題材を大切にしたい課題設定と学習の接続

本校は、ラウンド制という繰り返し学習の中で、4技能を何度も使えるように、言語活動を意図的に位置付け、児童生徒が相手意識をもって活動できる場を設定している。このことによって、児童生徒は繰り返し同じ題材について考えたり、言語材料を使ったりすることができ、その活動の中で知識及び技能を少しずつ習得したり、思考力、判断力、表現力等を付けたりすることができる。

また、私たちは、題材の設定や活用に重きを置いている。児童生徒は各単位時間に扱われる題材によって言語材料を選択する。従って、児童生徒に題材に関する気付きや自分の考えと相手意識をもたせることによって、活動内容が具体的になり、目的や場面、状況に応じてコミュニケーションを取ることができる力が身に付いていくと考えている。題材の範囲が、自分から自分の周りへと広がっていくことによって、児童生徒が選択する言語材料の量が増え、さらに深いものになっていくと考えられる。従って、題材は同じものを使うだけでなく、児童生徒の発達段階や学校行事などの外的な要因を加味して、変えるようにしている。その時々に応じて、適切な題材や課題を設定することが、児童生徒の学習の質を高める。

ラウンド制の学習の中では、「聞いて概要をつかむ力」の向上、「読み取ることで内容を深く理解する力」の向上、「話したり書いたりすることで表現する力」の向上を意図して、ラウンドを設定した。

前期課程では五つのラウンドを設定し、ラウンド4とラウンド5において二つの単元で表現活動を位置付け、コミュニケーションを図る資質・能力を育成している。さらに、第6学年と第7学年の接続をスムーズに行うために、第7学年のSeasonの中に、「文字と音声を結びつけるためのラウンド」を設け、第6学年で学習した「簡単な語句や基本的な表現」についての知識及び技能をさらに深め、必要な情報を適切に読み取ったり、文章の概要を捉えたりすることができるための資質・能力の育成を目指している。

(2) 関係構築力について

目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝えたり他者の考えや気持ちを理解したりすることで、相互理解を図る姿

① 状況を明らかにしたコミュニケーション活動の設定

外国語科の4技能5領域における活動の中で、児童生徒が明確な相手意識をもって、言語活動に取り組めるようにする。相手意識をもつことは、表現活動だけではなく、文章を読む活動などにも必要である。なぜなら、筆者の心情や体験などを自分と比較しながら文章を読み取ることも、目的や場面、状況を意識することにつながるからである。

「相手に自分の考えを伝えるためにはどう表現するとよいのか」「相手が何を、どのように考えているのか」について理解することは、相互理解に欠かせないと考えている。また、児童生徒が仲間に伝えたいと思えるような必然性のある課題の設定や目的や場面、状況等の設定をすることが、相手意識の大切さを児童生徒に感じさせる方法だと考え、リアルなコミュニケーションを図るための活動を位置付けている。

② 相手と関係を構築するための手法

自分の考えを伝えたり、仲間と対話を継続したりするためには対話スキルが必要である。そのため、自身の考えを表現したり、他者の考えを聞き、受け入れたりするために必要な相づちや反応の仕方、繰り返し使用する表現を学ぶ場を位置付けている。また、相手に自分の考えを具体的に伝えるためには、文章構成やよりよい伝え方の方法を知ることが大切である。自分の主張に根拠を付け加えたり、一文だけではなく、まとまりのある英語の文章を用いたりすることにより、相手と円滑にコミュニケーションが取れるのである。そのための方法をラウンド制の中で、繰り返し指導することにより、少しずつ習得させている。

(3) 貢献する人間性について

日常的な話題や社会的な話題等について、他者に配慮しながら、自分の考えや気持ちを表現しようとする姿

日常的、または社会的な話題や異文化の情報等、様々な話題を意図的にトピックとして設定し、それに対する自分の考えをもち、仲間と交流するための場を設定している。相手意識をもち、複数の相手と会話できるようにすることで、児童生徒は、様々な考えや価値観とふれあい、自らの意見を再構築する体験ができる。また、授業で自分の学びの高まりや仲間のよさを見直す場面を設定することで、自身の考えを見直し、仲間のよさを取り入れることができるようにしている。

3 単元の指導計画

学年	第6学年	単元名	Season 2 「世界と日本のつながりを考えよう」(全28時間)
単元で育む資質・能力			
<p>普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについて、話の概要を理解したり他者の考えや気持ちを知ったりし、世界のつながりの中で生活していることに気付き、わたしたちの暮らしをよりよくするために、自分の生活とつなげながらわたしたちにできることを考え、他者に伝わるように事実を明らかにしたり経験を加えたりし工夫して自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。</p>			
時	主な学習活動とねらい		自己実現に向かう資質・能力を発揮している姿
Round 1 ①～⑥	<p><u>○話の内容をつかむ Round</u> 普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについての身近な話を聞き、既習表現や単語などから話の内容を推測し、おおよその内容を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話聞く。 ・教師の質問に答える。 		<p>他者と共に世界の中で生活していることに気付き、環境や食生活について自分の生活とつなげながら話を聞き、わたしたちにできることを考え、伝えていこうとする姿(貢献する人間性)</p>
Round 2 ⑦～⑨	<p><u>○話の内容を理解し、表現を知る Round</u> 普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについての動画を視聴して、話の内容を掴み、その内容を伝えるために使われている表現を知ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴する。 ・どのような表現が使われているかを交流する。 ・聞こえた表現を繰り返す。 		<p>話の内容を伝えるために、どのような表現が使われているか繰り返し聞いたり仲間と確認したりして、実際に自分で声に出しながら必要な表現を獲得する姿(問題解決力)</p>
Round 3 ⑩～⑮	<p><u>○自分のことを話したり相手のことを尋ねて知ったりする Round</u> 普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについて、聞いたことや表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let's Listen に取り組み、聞いたことや表現を用いてやり取りする。 ・用いた表現を読んだり書いたりする。 		<p>普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについて、自分の考えや気持ちを伝えたり他者の考えや気持ちを理解したりすることで、相互理解を図る姿(関係構築力)</p>

<p>Round 4 ⑬～⑳ 本時 ⑮</p>	<p>○目的や場面、状況に応じて自在にコミュニケーションを図る</p> <p>Round 普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについて、目的や場面、状況等に応じて、他者に伝わるように工夫しながら自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面、状況等を把握し、自分の考えや気持ちを伝え合う。 ・他者との交流を基に、考えや表現を再構築する。 	<p>よりよい暮らしをつくり出すために、他者に伝わるように工夫して自分の考えや気持ちを伝えたり他者の考えや気持ちを理解したりすることで、相互理解を図る姿（関係構築力）</p>
<p>Round 5 ㉕～㉘</p>	<p>○自己の学びを確かめる Round 普段の経験や、生き物や食べ物のつながりについて、聞いたり読んだり話したり書いたりし、自分の学びを確かめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステスト（聞くこと・話すこと）に取り組む。 ・ペーパーテスト（聞くこと・読むこと・書くこと）に取り組む。 ・自分の学びを確かめ、次の目標をもつ。 	<p>学びを振り返り、自分の成長や仲間のよさに気づき、他者に配慮しながら自分の考えや気持ちを表現しようとする姿（貢献する人間性）</p>
<p>研究にかかわる見届けの視点と手立て</p>		
<p>問題解決力</p>	<p>自分の経験とつなげて環境や食生活に目を向け、わたしたちの暮らしをよりよくするために、既習表現を活用し表現している姿 →身近な話題から課題を設定し、Round 学習を用いて繰り返し様々な言語材料に触れる機会を設けることで、スモールステップで発展的に活動を行う。</p>	
<p>関係構築力</p>	<p>相手に伝わるように工夫して自分の考えや気持ちを伝えたり、共感しながら話を聞いて他者の考えや気持ちを理解したりすることで、相互理解を図っている姿 →質問しながら話したり相手の話を繰り返したりするなど、対話の方略的能力を指導する。また、相手に伝わる児童の話し方や内容を交流会で広め、表現を再構築する場を位置付ける。</p>	
<p>貢献する人間性</p>	<p>他者と共に暮らす世界の中の一人として、環境や食生活についてわたしたちにできることを考え、コミュニケーションを通して自分の成長や仲間のよさに気づき、さらに自分の考えや気持ちを表現しようとしている姿 →児童にとって身近な話題から世界とのつながりに気付ける話題を提供する。自分や友達の成長やよさを振り返る場を設け、価値付ける。</p>	

4 教科にかかわる本時のねらい

自分の大好きなメニューを仲間に食べたいと思ってもらえるように、メニューのよさを具体的に伝えたり、相手の話を聞いて自分の考えや気持ちを伝えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開（2/9）

児童の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 Song Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べた物やその産地についての表現や英語のリズムに親しみながら楽しく歌う。 <p>2 Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨夜食べた物について尋ねたり答えたりして伝え合う。 ・相手の話に対して、さらに質問したり反応したりしながら対話する。 <p>3 Today's Aim</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仲間に食べたいと思ってもらえるように、自分の大好きなメニューを紹介しよう。</p> </div> <p>4 Enjoy Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験をもとに大好きなメニューを紹介したり、メニューに使われている食べ物の産地や献立全体の栄養バランスなどを説明してそのメニューのよさを伝えたりする。 ・相手の大好きなメニューを聞いて、感想を伝えたりよりよくする方法を提案したりする。 ・教師の話聞き、目標に近づく姿を確認し、そのための方途を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: This is my best menu. Kei-chan, rice, hoba miso and miso soup. I went to Takayama. My grandparents live in Gujo. I ate Kei-chan. It was delicious. The chicken and cabbage are from Gifu. Hoba miso is from Hida. Chicken is in the red group. Cabbage is in the green group. Rice is in the yellow group.</p> <p>B: It's great. I like Kei-chan. I can eat a lot of vegetables. How about eggplant miso soup? I like eggplants. They are in the green group too. It's good for your health.</p> </div> <p>5 Kira-Kira Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標に沿って自己評価を行い、自分や仲間のがんばり確かめ、次時の目標をもつ。 ・教師による評価を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>仲間に食べてみたいと思ってもらえるように、自分の気持ちを加えて詳しく話すことができた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに学習した題材を繰り返し扱い、既習表現を活用し、定着させる場を設ける。 ○自分のことを詳しく伝える表現や、相手の話に対して質問したり反応したりする表現を確認し、活用できるようにする。 ○自分の考えを詳しく伝えている児童や相手の話に対して質問したり反応したりしている児童の表現を広め、他者意識をもって活動することができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>研究に関わって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>食べたいと思ってもらえるように、経験や理由を加えて紹介したり、相づちを打ったり繰り返したりして共感的に相手の話を聞いたりしている姿を Enjoy Communication の様子から見届ける。</p> <p style="text-align: right;">（関係構築力）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を価値付け、次時への願いをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】</p> <p>自分の大好きなメニューを仲間に食べたいと思ってもらえるように、メニューのよさを具体的に伝えたり、相手の話を聞いて自分の考えや気持ちを伝えたりしている。</p> <p style="text-align: right;">〔思考・判断・表現〕</p> </div>

3 単元の指導計画

学年	第7学年	単元名	Season2 Round4 Unit6 「A Speech about My Brother」(全5時間)
単元で育む資質・能力			
<p>既習事項を正しく使いながら、本文の概要やそれに対する自分の考えを表現するために、本文を音読したり、リテリングをしたりすることで詳しい内容や単語、文章の正しい発音方法などを理解することができる。また、海外の国の文化や生活、日本とそれらの国の違いを知ること、世界の様々な国について興味を持ち、それに対する自分の考えをもつことができる。さらに、読んだことを基に考えたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。</p>			
時	主な学習活動とねらい		自己実現に向かう資質・能力を発揮している姿
①	単元のオリエンテーションを聞き、単元の流れを理解する。また、自分の身近な先生紹介を仲間と行う。 ・トピックに沿った表現活動を行う。		日常的な話題についての自分の考えをもち、仲間とコミュニケーションをとることを通して、自分の考えを表現したり、仲間の考えを理解しようとしたりする姿（貢献する人間性）
Round1 ②～⑥	本文の音声（リスニング）を聞き、本文の概要を理解する。また、つかんだ内容について簡単なリプロダクションを行う。 ・本文のリスニング聞き取りを行う。 ・本文のリプロダクションを行う。		・本文のリスニングを聞くことで、その要点や概要を理解し、語彙や表現方法等を取り入れようとしている姿 ・本文の概要について、仲間とリプロダクションしている姿 （問題解決力）
Round2 ⑦～⑪	本文や単語の発音方法を知り、それを聞いたり発音したりすることで、文字と音声を結びつける。1語ずつ発音を聞いたり、他の単語との結びつきを理解したりして、音声について理解する。 ・本文のリスニングや単語の並び替えを行う。		・本文や単語の音声を聞くことで、正しい発音について理解している姿 ・音声を聞いて単語を並び替えたり、実際に単語の発音をしたりする姿 （問題解決力）
Round3 ⑫～⑯	本文の読み取りを行い、本文の要点や内容を深く理解する。また、理解した内容について簡単なリテリングを行う。 ・本文を読み取る。 ・本文のリテリングを行う。(本文中心)		・本文を読みとることで、その要点や内容を深く理解し、語彙や表現方法等を取り入れようとしている姿 ・本文の概要や細部情報について、仲間と本文の内容を中心にリテリングしている姿（問題解決力）
Round4 ⑰～⑳ 本時 ⑰	教科書本文を音読したり、教科書の表現を活用してその内容について相手に説明したりする活動を通して、教科書本文の概要や自分の考えなどを的確に表現することができる。 ・本文の音読を行う。 ・本文のリテリングを行う。(話す・書く)		・本文を音読することで、その文章の発音や表現方法を理解し、語彙や新出の言語材料等を取り入れている姿 ・本文の概要だけでなく、自分の考えなどをつなげてリテリングしている姿（問題解決力）

Round5 ⑳～㉔	Unit6～Unit10 の題材を中心とした表現活動に取り組み、目的や場面、状況に応じた表現方法を用いて、仲間に自分の考えや気持ちを伝えることができる。また、相手意識を明確にもち、「何を、どのように」表現するのかを吟味しながら活動を行うことができる。 ・新出の言語材料等を使って、表現活動を行う。	目的や場面、状況に注意し、相手意識をもちながら、自分の考えや気持ちを仲間に伝えたり、他者の考えや気持ちを理解したりしている姿 (関係構築力)
㉕	出口の活動であるパフォーマンステストに類似したトピックについての表現活動に取り組み、目的や場面、状況に応じた表現方法を用いて、仲間に自分の考えや気持ちを伝えることができる。また、相手意識を明確にもち、「何を、どのように」表現するのかを吟味しながら活動を行うことができる。 ・表現活動を行う。	目的や場面、状況に注意し、相手意識をもちながら、自分の考えや気持ちを仲間に伝えたり、他者の考えや気持ちを理解したりしている姿 (関係構築力)
出口の活動 ㉖	設定された初見の課題に対して自分の意見を持ち、相手意識を明確にもって意見を表現することができる。 ・パフォーマンステスト	目的や場面、状況に注意し、相手意識をもちながら、自分の考えや気持ちを表現しようとする姿(貢献する人間性)

研究にかかわる見届けの視点と手立て

問題解決力	言語活動を通して、ラウンド1～3で獲得した知識及び技能を活用して、フィリピンでの卓也の生活や海外生活についての自分の考えを話したり書いたりしている姿。 →リテリングをする目的や場面、状況を明らかにして、コミュニケーションを図る活動を行う。
関係構築力	言語活動の中で、目的や場面、状況を考えながら、自分が言いたいことを話したり、仲間の意見を聞いて自分の考えを再構築したりしている姿。 →活動の目的や題材の場面、状況を明らかにして活動を行ったり、自分の考えや気持ちを伝えるスキル(詳しく話す・質問を交えて話す・感想を加えて話す等・相づち・反応の仕方等)を指導して、言語活動を位置付けたりする。 →中間交流会等で、仲間の様々な意見を知り、自分の思いや表現を再構築できる場を位置付ける。
貢献する人間性	フィリピンでの卓也の生活に関する概要をとらえたり、海外生活に対する自分の考えを持ち、それを仲間と交流したりしている姿。 →表現方法や海外についての考えを仲間と交流する場を設定し、他者のよさ等について気付いたことを振り返る場を設ける。

4 教科にかかわる本時のねらい

Unit 6 の本文を音読したり、教科書の本文の概要を相手に説明したりする活動を通して、3人称単数現在形などの既習事項を正しく使いながら、本文の概要や海外生活に関する自分の考えなどを表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (1/5)

生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 コミュニケーション活動・・・3ペア程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話から本時のトピックを理解する。 ・ペアをかえながら、トピックに対する自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 ・全体交流の場で、英語表現などを確認し、次の活動に生かす。 <p>2 本時のトピックの理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>“A Speech about My Brother”の概要を仲間に語ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容を思い出し、ペアとリテリング活動をする。(1ペア) <p>3 教科書本文音読(個人練習、ペア練習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Repeating (本文の内容や語彙のインプットを行う) ・ Shadowing (本文の内容や語彙のインプットを行う) ・ Read and Look up (本文の内容や語彙のインテイクを行い、表現に生かせるようにする) <p>○適宜、本文の内容を再確認する。</p> <p>4 ペア交流1 (Retelling ☆speaking)・・・2ペア程度(1回目は教科書なしで行う 2回目は教科書を使ってもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit6 の教科書の内容についてリテリングを行う。 ・ 挿絵やキーワードを元に、リテリングをする中で仲間の表現のよさを取り入れる。 <p>5 全体交流(中間交流会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の表現を生かし、本文の内容と合わせて、自分のことにもつなげながら紹介している姿を見て、自分に取り入れられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>A: Hello. Look at this picture. Do you know this man? His name is Takuya, Asami's brother. <u>He is twenty years old. He lives in Cebu, the Philippines. He studies English. Do you like musical?</u></p> <p>B: Yes, I do. He goes to school there.</p> <p>A: <u>He likes diving. He writes a blog about school life, local food, nature and nice spots for diving. He wants to posts pictures, so he wants a waterproof camera.</u></p> <p>B: OK. He doesn't have one.</p> <p>A: That's right. <u>Do you know Filipino food? Takuya likes sinigang and Halo-halo. They are famous in the Philippines. Halo-halo is a dessert. It's a mix of ice cream, fruit, sweet beans, shaved ice and so on. I want to eat it. I can buy it in the convenient store. Do you want to eat it?</u></p> <p>B: Oh, Yes. And I want to go to the Philippines. It is a good country.</p> </div> <p>6 ペア交流2 (Retelling ☆speaking)・・・3ペア程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体交流で確認した表現を自分に生かし、さらに複数ペアとリテリングをする。 <p>7 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の評価規準を達成した姿を見て、自分と比べる。 	<p>○状況を見ながら適宜、全体交流の場を設ける。</p> <p>○コミュニケーションマナーなど、雰囲気づくりに欠かせない視点を認め、クラス全体へも広める。</p> <p>○教科書本文の内容理解はラウンド3までで行っている。課題提示の後、一度リテリング活動を行い、自分が表現できることとできないことを整理させ、課題解決に向かうことができるようにする。</p> <p>○音読練習では、インプットとインテイクができるように数通りの方法で音読練習ができるようにする。また、個人練習とペア練習を意識的に使い分け、効率的に練習に取り組めるようにする。</p> <p>○複雑な表現などを再確認する。</p> <p>○挿絵やキーワードなどを参考にリテリングを行う。適宜、全体交流を位置付け、仲間の表現のよさを共有したり、上手く言えない表現を確認したりする。</p> <p>○自分の考えをもてない生徒には、「Do you want to eat <i>Sinigang</i>?」などと問いかける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>研究に関わって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>①何を、②どのように話せば相手に伝わりやすいのかを考え、自分の考えを付け加えて Unit6 の内容をリテリングしている姿を交流の様子から見届ける。(問題解決力)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価規準】</p> <p>本文の概要に自分の考えを加えて、10文程度の正しい英文でリテリングをしている。</p> <p style="text-align: right;">[思考・判断・表現]</p> </div>